

2018年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

## まえがき

2018 年度前期および後期の授業評価アンケートの結果を、ご報告いたします。先生方には、講義時間内でのアンケート調査の実施、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございます。

本アンケートは 2015 年度前期から同じ質問項目で行っており、授業に対する学生の評価を年ごとに比較することが可能です。

本年度は原則として全教員を対象に、授業評価アンケートを実施しました。また、前期と後期の結果をまとめて 1 冊の報告書としております。

1 冊の報告書にしたことで、前期と後期の比較が容易にできるようになっております。本報告書を学年の変わり目である前期と半年の学びを経た後期の比較、学生の学びに対する姿勢や専門課程への興味の変化などを評価する資料として活用して頂ければと考えております。本学の活発な FD 活動のためにも教員個人だけでなく、各学科、学部でも種々のデータを詳細に検討して頂けますよう、お願いいたします。

本結果報告書でも、例年通り FD 委員会において学科別などの集計や分析を行いました。高大接続に代表される「学びの連続性」の確保や教育におけるダイバーシティの重要性、大学のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の再考や具体化、学びの質保証(ディプロマポリシーの具現化)が求められるなか、各学科、学部の教育課程、教育や学びの方針の検討のための資料としても、本データを活用して頂けるのではないかと思います。そのためにも、教職員の皆さまには、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

2019 年 3 月 31 日

相愛大学 FD 委員会

庄條 愛子

中村 圭爾

進藤 容子

橋田 光代

井上 陽

千葉 真也

吉田 信幸

藤永 慎一

染川 章文

谷川 由紀

木村 諭史

## 授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

### 1. 質問 1～14 における評価の特徴（表 1）

		質問項目についての平均評価値(表1)															
		2017	2017	2018	2018	2017	2017	2018	2018	2017	2017	2018	2018	2017	2017	2018	2018
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		基礎・共通科目	基礎・共通科目	基礎・共通科目	基礎・共通科目	基礎・共通留學生	基礎・共通留學生	基礎・共通留學生	基礎・共通留學生	基礎・共通留學生以外	基礎・共通留學生以外	基礎・共通留學生以外	基礎・共通留學生以外	資格科目	資格科目	資格科目	資格科目
		問1	3.24	3.33	3.31	3.32	3.35	3.34	3.19	3.51	3.23	3.32	3.33	3.28	3.51	3.42	3.58
問2	3.23	3.20	3.24	3.35	3.47	3.41	3.16	3.46	3.20	3.18	3.25	3.34	3.62	3.41	3.56	3.51	
問3	2.69	2.53	2.68	2.72	3.18	3.18	2.77	2.78	2.63	2.46	2.66	2.71	3.11	2.41	3.10	2.88	
問4	3.24	3.28	3.36	3.40	3.56	3.59	3.44	3.53	3.20	3.25	3.35	3.38	3.63	3.48	3.59	3.38	
問5	3.62	3.60	3.68	3.65	3.77	3.82	3.77	3.74	3.60	3.58	3.67	3.64	3.77	3.69	3.73	3.77	
問6	3.41	3.39	3.47	3.49	3.67	3.70	3.63	3.63	3.38	3.36	3.45	3.46	3.73	3.51	3.66	3.70	
問7	3.51	3.39	3.52	3.50	3.66	3.57	3.59	3.60	3.50	3.37	3.50	3.49	3.72	3.60	3.70	3.57	
問8	3.39	3.32	3.47	3.48	3.62	3.66	3.51	3.59	3.36	3.28	3.46	3.47	3.71	3.55	3.58	3.60	
問9	3.40	3.41	3.44	3.48	3.65	3.66	3.56	3.71	3.37	3.38	3.42	3.44	3.70	3.52	3.61	3.64	
問10	3.32	3.43	3.40	3.48	3.59	3.73	3.55	3.71	3.29	3.40	3.38	3.44	3.60	3.55	3.61	3.46	
問11	3.19	3.29	3.24	3.39	3.42	3.61	3.28	3.59	3.16	3.26	3.23	3.35	3.54	3.45	3.52	3.33	
問12	3.19	3.19	3.19	3.26	3.44	3.55	3.26	3.43	3.16	3.16	3.18	3.23	3.52	3.40	3.54	3.42	
問13	3.27	3.24	3.27	3.33	3.49	3.50	3.33	3.48	3.24	3.21	3.26	3.31	3.55	3.42	3.59	3.44	
問14	3.27	3.27	3.32	3.40	3.54	3.57	3.40	3.59	3.24	3.24	3.30	3.36	3.61	3.51	3.60	3.44	

【基礎・共通科目】項目間の相対的な評価の高低に関しては、前後期とも、質問 3 の評価が極端に低く、質問 5～10 の評価が比較的高いという傾向に変化が見られない。

平均評価値を前期と後期で比較すると、2018 年度は、表 1 に示すように大半の質問項目で後期の評価が高くなっている。2017 年度の場合、全体として後期の評価が高いとは言えないが、質問 9 から質問 11 までは 2017 年度も 2018 年度も後期の評価が高い。特に授業の理解度に関わる質問 11 は 3.19→3.29（2017 年度）、3.24→3.39（2018 年度）と上昇している。

次のような理由が考えられる。第一に、基礎・共通科目は「建学の精神」や英語・英会話をはじめとする語学科目など 1 回生配当科目が多いことである。1 回生が大学の授業のあり方に慣れてきた結果であると考えられることもできる。質問 10 も授業の量やスピードに関するもので、同様のことが考えられる。

第二に基礎・共通科目には留學生の受講者が少なくないことである。質問 11 において 2017 年度は、3.42→3.61、2018 年度では 3.28→3.59 と、かなり評価が高くなっている。前期には授業について行くことが困難であった留學生が、後期になって、授業を理解しやすくなっているということが考えられる。

一方、資格科目では後期が前期に比べて高くなる傾向はない。資格科目は 2 回生以上に配当されているものが多い。さらに留學生の受講も少ない。基礎・共通科目で指摘したような後期の評価を押し上げる要因が欠如しているのである。

## 2. 授業に対する満足度（質問 14）と質問 1 から質問 13 の関連

質問 14 は授業に対する満足度を問うものである。2017 年度前期から 2018 年度後期までの基礎・共通科目と資格科目について、質問 14 とそれ以外の質問がどのように関連するか調べてみた。結果を表 2 に示す。

問14「この授業を受講して満足できましたか。」との相関(表2)					
		2017	2017	2018	2018
		前期	後期	前期	後期
質問1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか。	0.37	0.07	0.36	0.59
質問2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。	<b>0.94</b>	0.85	0.85	0.86
質問3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。	0.50	0.67	0.51	0.77
質問4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか。	<b>0.92</b>	0.88	<b>0.94</b>	0.88
質問5	担当教員は授業時間を守っていましたか。	0.60	0.48	0.61	0.78
質問6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか。	<b>0.91</b>	0.84	0.89	0.79
質問7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか。	0.86	0.85	0.89	0.85
質問8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか。	0.61	0.40	0.65	0.49
質問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。	0.50	0.77	0.77	0.80
質問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。	0.86	0.87	0.87	<b>0.94</b>
質問11	この授業の内容は理解しやすかったですか。	<b>0.96</b>	<b>0.90</b>	<b>0.95</b>	0.89
質問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。	<b>0.96</b>	<b>0.92</b>	<b>0.93</b>	<b>0.93</b>
質問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。	<b>0.97</b>	<b>0.94</b>	<b>0.94</b>	<b>0.92</b>

まず、質問 11 から質問 13 が、相関係数 0.95 前後で、極めて強い相関があることが分かる。授業の内容が理解でき（質問 11）、取り上げられた分野への関心が高まり（質問 12）、新しい知識・考え方・技能が習得できたら、満足度は当然高くなる。

次に、受講者が学習目標を理解でき（質問 2）、または教員が授業の学習目標をはっきり示すこと（質問 6）も、高い満足度につながる。もちろん、教員がわかりやすく話し（質問 4）、質問に適切に対応し（質問 7）、ほどよい量と速度を保つこと（質問 10）は、学生の理解度を増し、満足度につながる。これらの相関係数は 0.9 前後である。

一方、受講者が授業時間以外に学習すること（質問 3）、教員が授業時間を守ること（質問 5）、遅刻や私語に対する注意を適切に行うこと（質問 8）などは、相関係数が 0.5 から 0.6 前後であり、前述の項目ほど強い相関を示すとは言えない。質問 9 の板書やプリントの使い方と同様である。

質問 1 の相関係数にはばらつきがあり、判断しにくいだが、すべての質問項目の中で最も低い相関係数となっている。

### 3. 「身についた力」

「身についた力」について、科目を講義科目、演習・実技科目（外国語、情報処理演習、スポーツ）、資格科目（教職、司書）、留学生科目（日本語会話、日本語）に分けて、全選択数に対する各選択肢の選択数の数値と割合を表3に示す。

身についた力(表3)									
	① 問題 力 を 問 見 題 つ け 課	② 考 え る 力	③ 調 べ る 力	④ 取 り 主 組 体 む 的 力 に	⑤ カ テ ー プ シ レ ヨ ゼ ン	⑥ カ ケ ー コ シ ミ ヨ ユ ン	回 数 枚 数	回 答 総 数	と 用 の 紙 回 1 答 枚 ご
全体	783	1257	572	589	219	431	2225	3851	1.7
講義	402	667	289	245	66	70	1196	1739	1.5
演習・実技	90	170	96	124	43	164	394	687	1.7
資格	207	313	128	180	79	126	462	1033	2.2
留学生	84	107	59	40	31	71	173	392	2.3
全体	35.2%	56.5%	25.7%	26.5%	9.8%	19.4%			
講義	33.6%	55.8%	24.2%	20.5%	5.5%	5.9%			
演習・実技	22.8%	43.1%	24.4%	31.5%	10.9%	41.6%			
資格	44.8%	67.7%	27.7%	39.0%	17.1%	27.3%			
留学生	48.6%	61.8%	34.1%	23.1%	17.9%	41.0%			

(1) 講義科目と資格科目では、選択肢②の選択率が高い、(2) 演習・実技科目では、選択肢②と選択肢⑤が高い、(3) 講義科目や資格科目における選択肢①の選択率は演習・実技科目より高い、(4) 演習・実技科目における選択肢⑥の選択率が他の2領域より高い、(5) 選択肢⑤の選択率がどの領域でも目立って低い。以上は前年度までとおおむね同じ傾向であるが、留学生科目の場合、コミュニケーション力に関わる選択肢⑥以外に選択肢①と選択肢②が高い数値を示しているのが分かる。

なお、選択数を表の上段では割合ではなく数値で示した。すると、資格科目と留学生科目では用紙1枚ごとの回答数が2以上を示すのに対し、講義科目は1.5にとどまる。講義科目では、一人の回答者が身につけたと感じる力の数は資格科目や留学生科目に比べてかなり少ないということになる。

### 4. 自由記述の特徴

肯定的なコメント（「わかりやすかった」、「楽しかった」など）が目立ったが、板書については厳しい評価が多かった。「文字が小さい」「文字がきたない」「写す時間がとれない」など板書の文字そのものに関する記述に加えて、難しい漢字に振り仮名を付けてほしいなどの要望が目立った。

## 授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

### 1. 講義系科目の評価の特徴(表 1)

前期においては、問3を除けば音楽学科で平均 3.59 点、音楽マネジメント学科で平均 3.67 点の高い評価値となった。設問間のバランスについても概ね全学の全体的な特徴と同等である。後期も問3を除けば音楽学科で平均 3.46 点、音楽マネジメント学科で平均 3.75 点の高い評価値となった。

音楽学科、音楽マネジメント学科双方において評価点が最も低い問3は、「予習・復習を含めて授業時間外も学習したかどうか」を問うものであるが、これについては、他の設問より評価が低くなるという点では全学的な傾向とも一致する。

表 1 全学および音楽学部グループ平均（左：前期、右：後期）

前期	音楽学科	音楽マネジメント学科	全学	後期	音楽学科	音楽マネジメント学科	全学
問 1	3.41	3.31	3.37	問 1	3.31	3.27	3.37
問 2	3.55	3.59	3.43	問 2	3.35	3.58	3.43
問 3	2.90	3.00	2.96	問 3	2.84	2.88	2.96
問 4	3.60	3.67	3.50	問 4	3.39	3.81	3.50
問 5	3.72	3.83	3.72	問 5	3.68	3.88	3.72
問 6	3.64	3.80	3.60	問 6	3.58	3.88	3.60
問 7	3.61	3.83	3.62	問 7	3.57	3.92	3.62
問 8	3.39	3.64	3.53	問 8	3.46	3.62	3.53
問 9	3.80	3.79	3.60	問 9	3.58	3.92	3.60
問 10	3.68	3.59	3.53	問 10	3.44	3.81	3.53
問 11	3.59	3.61	3.44	問 11	3.29	3.65	3.44
問 12	3.59	3.65	3.42	問 12	3.42	3.77	3.42
問 13	3.57	3.69	3.47	問 13	3.45	3.77	3.47
問 14	3.57	3.73	3.49	問 14	3.47	3.81	3.49
平均値	3.55	3.62	3.48	平均値	3.42	3.68	3.37
問3以外の平均値	3.59	3.67	3.52	問3以外の平均値	3.46	3.75	3.52

### 2. 実技・レッスン系科目の評価の特徴(表 2)

レッスン・実技系科目について表 2 に示す。音楽マネジメント学科については、前・後期ともに対象科目がなかったため、以下、音楽学科について述べる。

表2 音楽学部レッスン・実技グループ平均（左：前期、右：後期）

前期	音楽学科	後期	音楽学科
問1	3.54	問1	3.61
問2	3.24	問2	3.36
問3	3.74	問3	3.88
問4	3.63	問4	3.93
問5	3.21	問5	3.58
問6	3.57	問6	3.86
問7	3.56	問7	3.86
平均値	3.50	平均値	3.72

前期・後期のいずれにおいても、すべての項目で3.0点台を越えており、目立って低い評価は見られなかった。そのなかでも比較的低いものとして、2017年度と同様に問2「授業(レッスン等)の準備(譜読み・練習等)を十分にしましたか」と前期の問5「授業(レッスン等)で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか」が挙げられる。問2については、講義系科目の問3と同様、自身の事前準備に関するものである。講義科目(2.90および2.84点)に比べれば取り組んでいる様子は見られるものの、学生の自己評価として「準備不足である」感覚が高いのではないかと予想される。問5については、2015および2016年度では3.0点以下の低い値であった。しかし、2017年度の結果では3.0点以上、本年度は3.21点および3.58点と高くなっていることから、レッスン科目においても教員とのコミュニケーションが十分にとれていると考えられる。

### 3. 講義系科目・質問15の特徴

講義系科目においては、質問15として「この授業で身についたと思われる力」が何かが問われた。図1および2に学科別の結果を示す。

前期は音楽学科に比べて音楽マネジメント学科で(5)プレゼンテーション力、(6)コミュニケーション力の値が著しく低い値であったが、授業評価アンケートの対象となった科目によるものと考えられる。また、後期はすべての質問項目で音楽学科に比べて音楽マネジメント学科が高い値を示したが、授業評価アンケート対象科目数が少なく、すべてが少人数制の授業であったためと思われる。

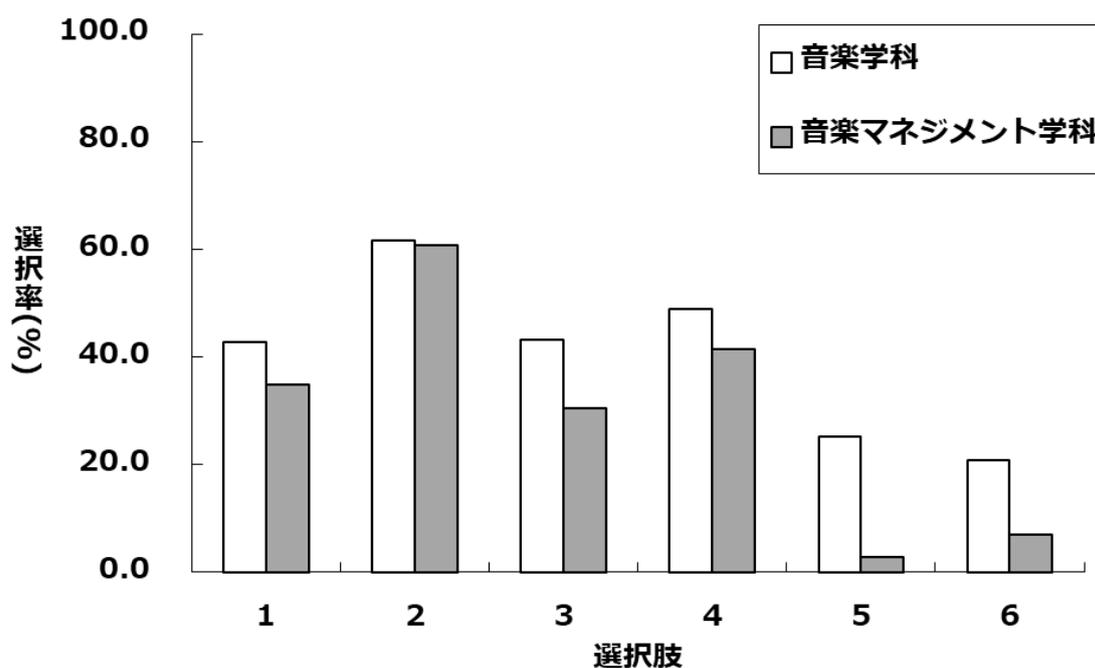


図1 質問 15：授業で身についた力（前期）

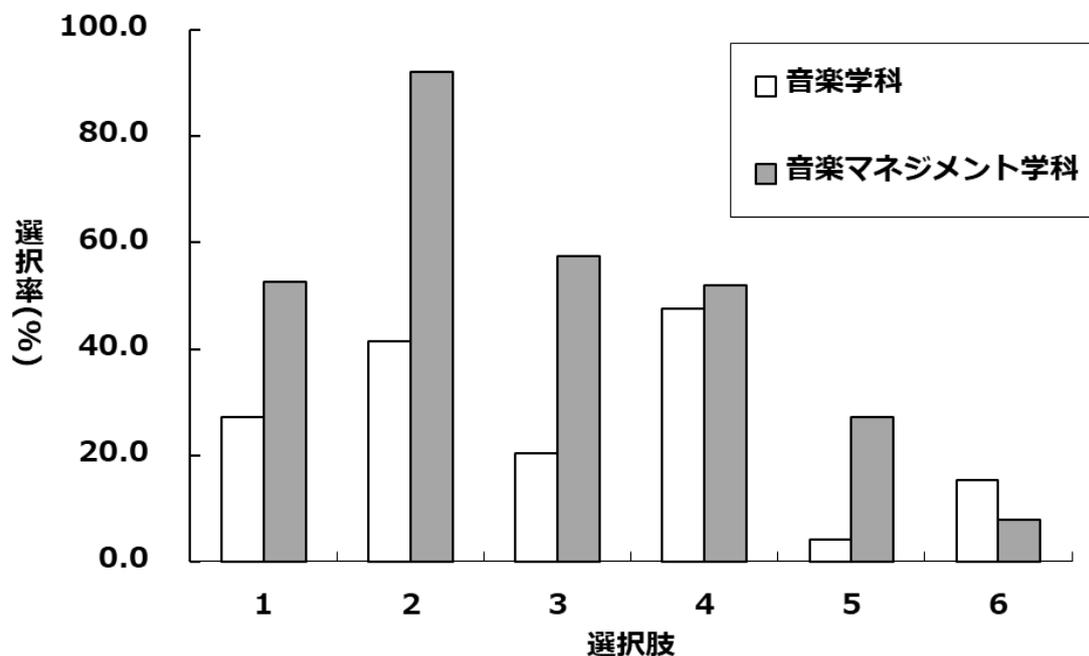


図2 質問 15：授業で身についた力（後期）

#### 4. 自由記述の特徴

ほとんどすべて音楽学科の科目で、自由記述欄への記載が見られた。具体的には「勉強になった」、「わかりやすかった」「新しい知識を身につけられた」などの前向きな感想が中心である。特に、様々な教員のオムニバス講義である「音楽キャリアデザイン」では多くの自由記述があり、音楽を学ぶ楽しさ、将来に向けての期待など、自らの学修にむけて具体的な抱負を読み取ることができた。

## 授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

### 1. 全体

全体の平均値(質問 1～質問 14)について、前期が 3.47 であったのに比べ、後期が 3.52 と上昇したことは喜ばしい結果である。昨年度までは前期に比べて後期の評価値が低下する傾向にあったため、今年度については改善の傾向が見られると考えても良いのかもしれない。

留学生、および留学生以外の別では、留学生が前期 3.54 から後期 3.59 へと上昇が見られるものの、留学生以外は前期・後期とも 3.43 と変化がないことから、人文学部全体の平均値の後期での上昇は留学生の評価値の変化によるものと見てよいであろう。

### 2. 質問 1～質問 3 について

- ①質問 1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか。
- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。
- ③質問 3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。

これらの質問は、授業を受けるにあたっての学生の姿勢に関するものである。後に分析する質問 9～質問 14 の改善が質問 1～質問 3 の改善につながるとも考えられることから、今後、併せて検討する必要があると考える。

- ①質問 1 あなたはこの授業に休まず出席しましたか。

人文学部全体としては、前期・後期とも 3.28 であり、高い数値ではない。留学生が前期 3.33 から後期 3.39 と上昇しているのに対し、留学生以外は前期 3.24 から後期 3.15 と低下していることは注目しなければならない。本分析の最後にも言及しているが、留学生以外の単位未修得率および退学者の減少への具体策を講じる上で、本質問で明らかとなった後期の出席率の低下に対しては、学生の夏季休暇中および後期授業開始時の生活状況に何かしらの対策が必要ではないかと思われる。

- ②質問 2 あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか。

全体として前期 3.42 から後期 3.46 へと上昇し、留学生は前期 3.48 から後期 3.52、留学生以外は前期 3.38 から後期 3.40 といずれも上昇している。このことから、①質問 1 の留学生以外の評価値の低下は、少なくとも授業の目標を見失って出席率が低下するというわけでないかと推察できる。

③質問3 あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか。

全体として前期 2.99 から後期 2.96、留学生在が前期 3.12 から後期 3.09、留学生以外は前期 2.89 から後期 2.80 といずれも低下している。他の質問に比べて本質問の評価値が低いという点は気になるところであり、授業時間外の学習をどのように指導していくのかは学部全体として検討しなければならないと考える。留学生在・留学生在以外ともにそれぞれの生活状況(学費捻出のためのアルバイト等)を考慮した上で、学生の本分たる学習環境の改善を図りたい。

### 3. 質問4～質問8について

①質問4 担当教員の話し方はわかりやすかったですか。

②質問5 担当教員は授業時間を守っていましたか。

③質問6 担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか。

④質問7 担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか。

⑤質問8 担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか。

これらの質問は、担当教員が授業を実施する際に最も基本となる項目である。

本質問の評価値は全体に前期から後期へと上昇しているが、この上昇は授業担当者の教授態度が変化したということよりも、後期における受講学生の「授業に対する慣れ」に起因するとも思われる。人文学部として前期をふまえて後期に何か特別な授業改善を行っているわけではないため、本評価値の後期での上昇は大学の授業方法に対する受講学生の理解が高まったため、とも解釈することができる。

上記から質問4～8の5項目は受講する学生側の心境を大きく反映していると考えられるため詳細な分析の必要性は低い、とも思われる。今後、授業評価アンケートの質問項目を検討する場合には、授業担当教員の姿勢を問うこれらの項目については議論が必要と考える。

### 4. 質問9～質問11について

①質問9 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。

②質問10 この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。

③質問11 この授業の内容は理解しやすかったですか。

これらの質問は、授業の際の学生の反応を示している。

①質問9 板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか。

全体として前期 3.61 から後期 3.69、留学生が前期 3.63 から後期 3.70、留学生以外が前期 3.59 から後期 3.70 といずれも高い数値であり、前期に比べて後期で上昇している。本質問項目で問う内容は授業の内容や性質(必ずしも視聴覚教材を必要としない授業など)により評価値が大きく変化するとも考えられるため、後期での評価値の上昇が授業改善の成果であると判断することは難しい。

②質問10 この授業の内容の量やスピードは適切でしたか。

全体として前期 3.55 から後期 3.64、留学生が前期 3.61 から後期 3.73、留学生以外が前期 3.50 から後期 3.54 といずれも高い数値であり、前期に比べて後期で上昇している。

③質問11 この授業の内容は理解しやすかったですか。

全体として前期・後期とも 3.49、留学生が前期 3.53 から後期 3.57 と上昇しているのに対し、留学生以外は前期 3.47 から 3.40 と低下している。留学生の評価値が上昇している理由は、日本語能力の向上と関係していると思われる。留学生以外の後期での低下は、後期に開講される授業は前期の入門的な授業に比べて専門性が高いためとも考えられ、授業の内容に専門性が増すと理解にばらつきが出てくるためではないかと解釈することができる。

本質問で問う「この授業の内容は理解しやすかったですか」は、学生の基礎的な学力にも大きく左右され、また受講学生の主観にも依っていることから、何をもって理解したのかを数値のみで判断することは難しい。「人文の学びとは、理解のしにくさこそ大きな学び」とも考えることができるため、本質問の評価値の低下は「学びの充実という点」においては良い結果だったのではないかと考えられる。

ただし、「理解ができないから、学びの楽しさを感じることが困難」⇒「授業がわからない」⇒「授業がわからないから行くのはやめよう」という流れにもつながることから、本質問の内容と出席率、学生の理解度などと相関を重ねて検討する必要があると思う。

## 5. 質問12～質問14について

①質問12 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか。

②質問13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。

③質問 14 この授業を受講して満足できましたか。

これらの質問は、担当者が実際に授業を行った結果、受講学生がどのように感じたのかを示すと考える。

①質問 12 この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心は深まりましたか。

全体として前期 3.43 から後期 3.5、留学生が前期 3.48 から後期 3.56、留学生以外が前期 3.39 から後期 3.43 という数値を示している。留学生・留学生以外を問わず、授業をただ聞くだけではなく問題意識を深めている姿勢を評価値から窺うことができることから、人文学部の授業について一定の評価をして良いように思う。ただし、留学生に比べて留学生以外の数値が低いことから、能動的な学びのための授業改善を留意しておく必要があると考える。

②質問 13 この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか。

全体として前期 3.45 から後期 3.52、留学生が前期 3.51 から後期 3.54、留学生以外が前期 3.41 から後期 3.48 という数値を示している。本質問に関する解釈は、上記の質問 12 と同様と考える。

③質問 14 この授業を受講して満足できましたか。

全体として前期 3.51 から後期 3.59、留学生が前期 3.57 から後期 3.63、留学生以外が前期 3.47 から後期 3.54 という数値を示している。上記の質問 12 および質問 13 を含めてそれぞれの項目の評価値を質問 11 の評価値と関連付けて考察すると、質問 11 「理解しやすさ」のみに着目すれば低めの数値となる。上述したように「理解しやすさ」の低評価はデメリットではなく、「授業で習得した問題意識を自己の問題意識へと変換している」とも考えられる。本質問「この授業を受講して満足できましたか」の評価値を「学生の学びに対する満足度」と捉えると、留学生・留学生以外でも後期での上昇として反映される。

これらの結果から、人文の学びでは受講生が理解のしやすさを求めているわけではなく、未知なること、これまで考えたこともないようなこと、さらには考えたところで一筋縄では答えがでないようなことが求められているとも考えることができ、授業担当者が適度に難解な課題を出すことで、受講者の満足度が上昇する可能性もあるのではないかと思う。

## 6. まとめ

本授業評価アンケートの結果から、ほとんどの質問で留学生の評価値に比べて留学生以外の評価値が低めになることが人文学部の課題と考える。

本授業評価アンケート全体から①授業に出てくれば一定の満足度は得られ(質問 14)、②授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心は深まっているが(質問 12)、③後期は留学生以外出席率が低下する(質問 1)ことが明らかである。

③留学生以外後期の出席率の低下(質問 1)は、留学生以外の単位未修得率および退学者の減少に寄与すると考えられることから、学生の夏季休暇中および後期授業開始時の生活状況に対して何かしらの対策が講じることが、喫緊の課題と考える。これらの対策は授業改善として取組むものではないとも考えられるが、近年大学内で議論されている単位未修得率、退学者の低下への様々な対応策を本授業評価アンケートの結果を踏まえたうえで再検討し、課題の解決を進めることが可能であると思う。

本学では人文学部に6つのコースを設けており、人文系の学びは各専門分野が同一の価値観のもとに成り立っているわけではなく、多種多様な価値観や学びのうえで成立している。また、人文学部の学びは「何かになる(将来的に就く職業)ための学び」ではなく、誇大な言い方をすれば「人間そのもの、人生とは何か、といった哲学的・思索的な学び」の部分も多い。そのため、多種多様な価値観や学びのうえで成立している人文学部の学びを「人文学部全体の評価値」としてひとまとまりにして論ずることは無謀に等しく、各授業の授業評価アンケートの結果を踏まえた個々の学生への対応が求められるべきとも考える。

今年度の授業評価アンケートの結果において、授業の運営などには大きな課題を窺うことは出来なかった。本授業評価アンケートの結果を踏まえた授業以外での学生個々への対応が、学生の出席率の上昇および単位未修得率、さらに退学率の低下につながると思われる。

## 授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

### 1. 評価の特徴

人間発達学部は子ども発達学科、発達栄養学科のいずれも資格取得に重点をおいた授業カリキュラムを編成している。そのため、授業評価アンケートの対象も資格取得に関連したものが多く含まれている。また、実験・実習および演習が多いのも本学部の特徴であり、本年度の授業評価アンケート対象科目の約半分がこれらの授業形態となっている。

両学科の資格取得には、一定の出席数が文部科学省および厚生労働省によって規定されている。また、実験・実習科目は指定された班での実施が前提となるため、同じ班の学生に迷惑をかけられないという学生の責任感も反映して問 1「授業を休まずに出席したか」に対する両学科の評価値は、例年と同様に全学に比べて高い値を示した。一方、後期は前期に比べて発達栄養学科で低下した。問 2「学習目標の理解」は全学・子ども発達学科に比べて発達栄養学科で低く、後期は全学、子ども発達学科および発達栄養学科のいずれも同じ値を示した。本授業評価アンケートは同じ質問内容を多年度にわたって実施しているが、問 2 に関する評価値の学科間での差異は、年度によって大きく異なっている。本アンケートの対象科目は各年度であまり大きく変化していないことから、問 2「学習目標の理解」の評価値とその後の成績、退学率や管理栄養士国家試験の合格率などの相関を検討したい。問 3「予習・復習、時間外学習」の評価値は、2014 年度から継続的に低い。昨年の取りまとめにも記載したように「時間外学習の減少」は本学のみ課題ではなく、また、大学のみ課題でもないことが様々な調査で明らかにされている。小学校～大学までのいずれでも課題であるため、小学校では自ら確実に理解すること・考えること・実践することを目的に「プログラミング教育」を必修化している。また、医療分野などの学域では授業内容を変更することなく授業形態を旧来の暗記型、基礎から応用に順次進める「SBL (Subject-based Learning)」学習法から、自分で学ばなければ学修できない「問題解決型学習 (PBL : Problem Based Learning)」学習法への変更が試みられている。従来の授業形態や教授法からの変更は労力だけでなく、学修効果が低くなるかもしれないという不安からすぐに実践することは難しいと考えるが、学生が自ら学ぶ必要性を強く感じやすい演習などの授業科目から検討できるのではないかと考える(表 1 および図 1)。

問 4～8 までの項目は担当教員の授業に対する姿勢を問うものである。前期はすべての項目で全学および子ども発達学科に比べて発達栄養学科が低い値であったが、後期はいずれもほぼ同じ値であった。本質問項目に対する評価値は、本年度も対象授業によりばらつきが認められた。発達栄養学科に限ったことではあるが、

学生が苦手と感じている教員では、いずれの項目も評価値が低い傾向が認められた。例年、人間発達学部では本項目について専任教員と非常勤講師の比較を検討しており、本年度も例年と同じ傾向が認められた。但し、学生との接点が専任教員よりも少ない非常勤の先生の授業を、学生は「よく知らない先生の授業」という先入観を持って授業に臨んでいるとも感じられる。問4～8の質問項目は担当教員の授業に対する姿勢を問うものであるが、授業担当者に対する回答者の感情に左右される傾向もあると考え、図を用いた専任教員と非常勤講師の結果の比較は記載しなかった。来年度以降は非常勤の先生方の初回の授業時には同じ専門分野の専任教員が先生を紹介するなどの工夫を試みることで、学生の「よく知らない先生」という先入観を緩和する学科単位での取組みを期待する。

授業の実施状況や理解に関する問9～11までの項目は、前期は全学および子ども発達学科に比べて発達栄養学科の評価値が低く、後期はいずれもほぼ同じ値であった(表1および図3)。この項目と関連した自由記述欄では「ノートを作ってくれていたのわかりやすかった」「パワーポイントをポータルに掲示してもらえてよかった」などの意見が挙げられたことから、視覚教材の活用時に先生方が様々な工夫をされていることがうかがえる。本年度は実施できなかったが、これらの質問項目の評価値が高い教員が講師となって学生が分かりやすいパワーポイントや授業資料の作成方法とはどのようなものか、次年度以降のFD研修会として是非、検討してもらいたい。授業の理解を問う問11は発達栄養学科が全学および子ども発達学科に比べて低い値を示したが、後期はいずれもほぼ同じ値を示した。本項目は学ぶ側である学生の自主的な学習も大いに関連することから、問3の予習・復習など時間外学習の工夫により、改善できると考えられる。

授業内容の理解および受講による学習効果を問う問12、13および14の項目は、前期は発達栄養学科で低く、後期ではいずれでもほぼ同じ値であった(表1および図4)。授業評価アンケート対象科目の多くが資格取得に関連し、後期は演習・実習系授業が多いことから、問12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、特に発達栄養学科の前期科目において評価値を高める努力が必要と考えられる。

## 2. 自由記述の特徴

自由記述欄は本年度も「楽しかった」「面白かった」という意見が最も多かったが、「実習で役立つ授業であった」など前向きな意見も多かった。本年度も否定的な記述の半面、同じ授業に対して「わかりやすい」「力がついた」と肯定的な記述もあり、学生間の学習能力に大きな差があることが推察される。

### 3. 身についた力の特徴

本年度の人間発達学部における授業評価アンケートでは、前期に比べて後期で「実験・実習・演習」が多いという特徴が挙げられる。例年、身についた力の学生自己評価は「実験・実習・演習」で高くなる傾向がみられるが、本年度は授業の形態に関わらず前期および後期のいずれにおいても、子ども発達学科ではほとんどの項目が全学および発達栄養学科に比べて高かった。発達栄養学科は前期、後期のいずれもすべての質問項目が子ども発達学科および全学に比べて低く、この結果は2015年以降継続していることから、発達栄養学科の学生の特徴と考えられる。栄養士・管理栄養士はこの力のいずれも必要であることから、4年間のすべての学びを通してこれらの能力を高める工夫が必要と考える。

### 4. 授業評価アンケートの傾向と今後の課題

本学部の授業評価アンケートのとりまとめを、2014年から担当している。人間発達学部の5年間の対象授業と結果の傾向について、簡単にまとめる。

本年度の結果も含め人間発達学部の評価値は「実験・実習・演習」で高く、「講義」では低く、また、専任教員に比べて日常的な接点の少ない非常勤講師では評価値が低い傾向が認められる。さらに、専門性の高い授業では授業の形態に関わらず、評価値が低い。特に専門性の高い非常勤講師の授業では、自由記述にも否定的な意見が多かった。授業を担当する教員は、授業評価アンケートの結果から自らの授業を顧みることが多い。専門性の高い授業を担当して頂いている非常勤講師の先生の評価値が非常に低く、自由記述で否定的な意見が多い場合には、専任教員として非常に心苦しい。但し、本アンケートの結果から肯定的な評価や意見が多数であると考えれば、否定的な意見をすべて受け入れる必要はないと考える。

他大学の授業評価アンケートの報告書でも、本学と同様に「非常勤講師の授業や授業で低い」「実験・実習で高い」傾向を窺うことができる。本アンケートを教員評価に利用する大学も増えていることから「良い評価値が得られるように教員が対象授業を作為的に選ぶ」「合格点に達するまで、同じ内容の最終試験を複数回実施している」などの対応がなされていることを聞くと、「何のため授業なのか」と疑問も感じる。

今後は、これらの問題点、疑問点を鑑みて「適切なFDのための授業評価アンケート」を検討したいと思う。

表 1 人間発達学部および全学平均の評価値

	前期				後期		
	全学	子ども発達学科	発達栄養学科		全学	子ども発達学科	発達栄養学科
問 1	3.37	3.43	3.41		3.37	3.38	3.31
問 2	3.43	3.49	3.29		3.43	3.44	3.43
問 3	2.96	3.10	2.88		2.96	3.05	3.01
問 4	3.50	3.50	3.13		3.50	3.42	3.43
問 5	3.72	3.66	3.52		3.72	3.64	3.61
問 6	3.60	3.59	3.38		3.60	3.56	3.58
問 7	3.62	3.59	3.37		3.62	3.57	3.56
問 8	3.53	3.50	3.35		3.53	3.47	3.52
問 9	3.60	3.56	3.44		3.60	3.49	3.54
問 1 0	3.53	3.51	3.27		3.53	3.46	3.44
問 1 1	3.44	3.48	3.17		3.44	3.46	3.41
問 1 2	3.42	3.49	3.18		3.42	3.46	3.41
問 1 3	3.47	3.53	3.22		3.47	3.50	3.44
問 1 4	3.49	3.51	3.22		3.49	3.50	3.46
平均値	3.48	3.50	3.27		3.48	3.46	3.44

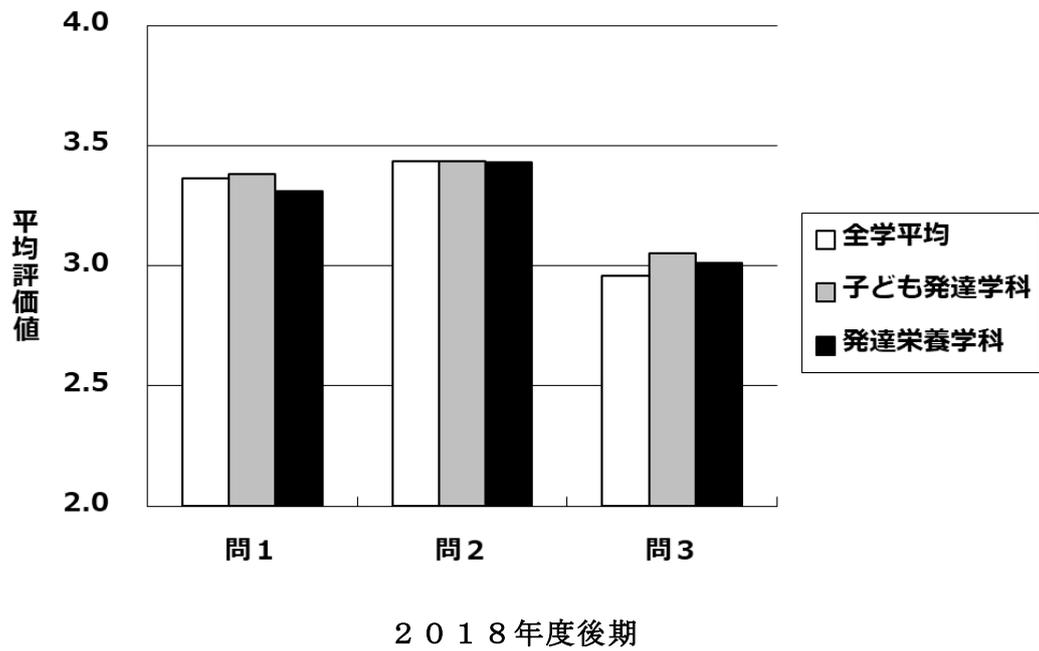
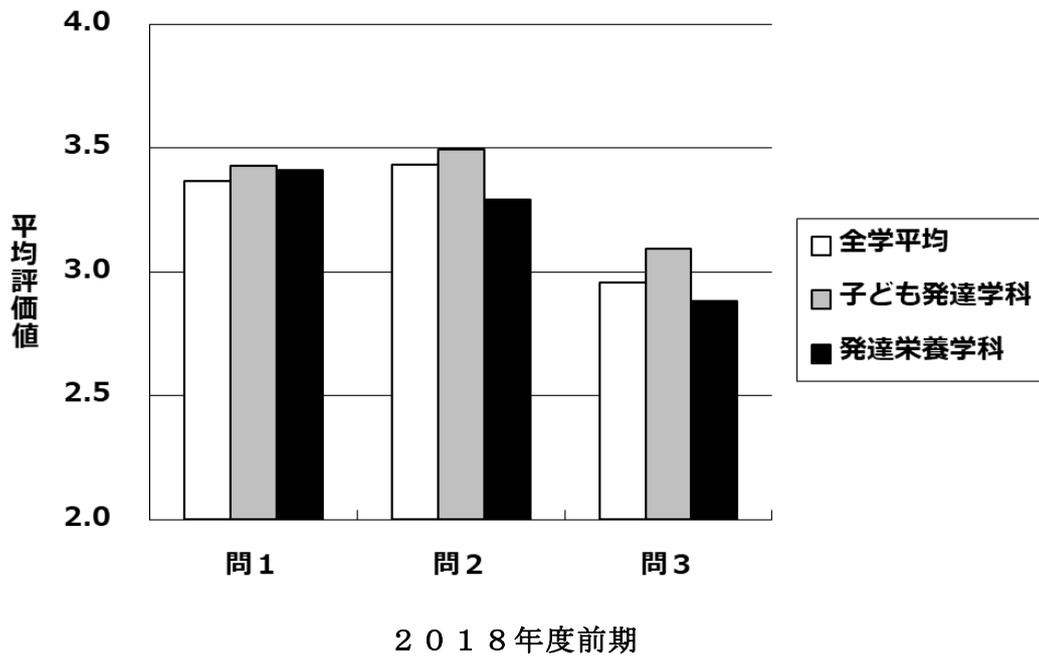
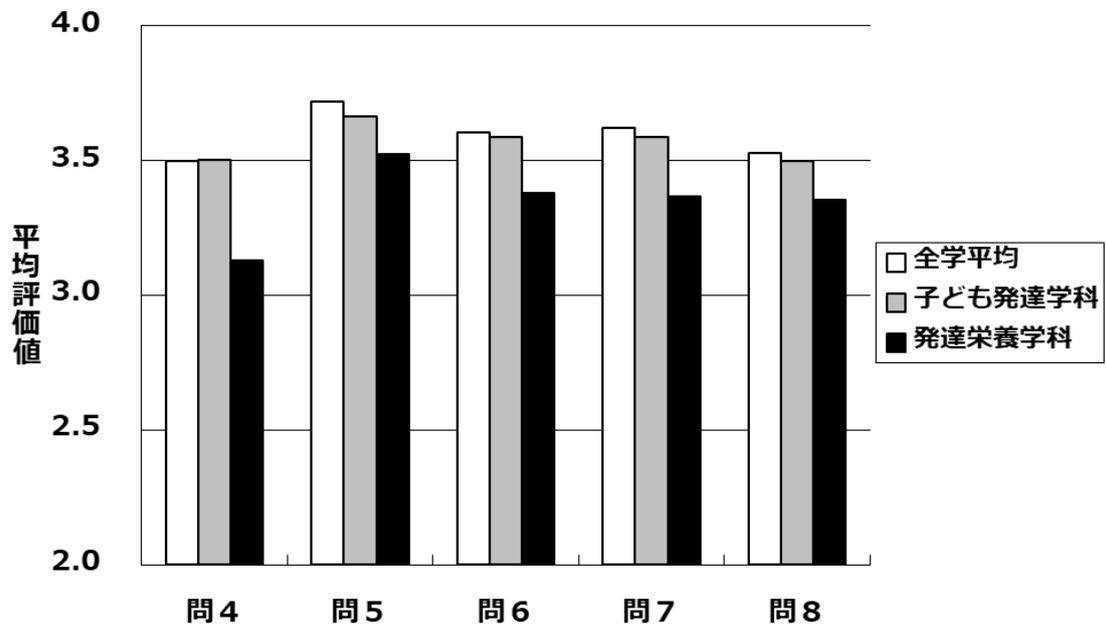
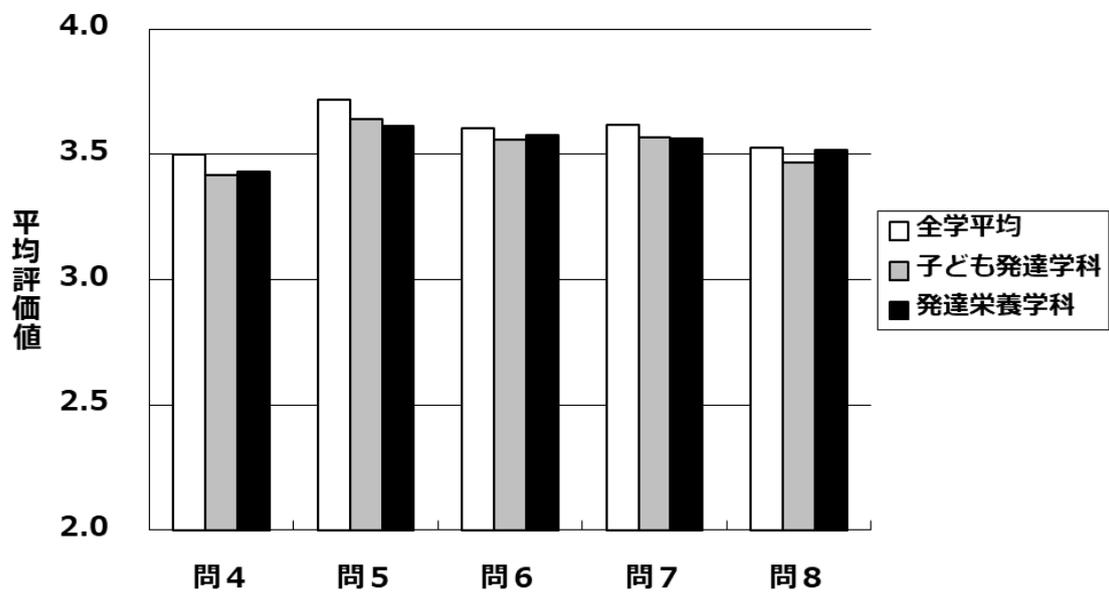


図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評価値

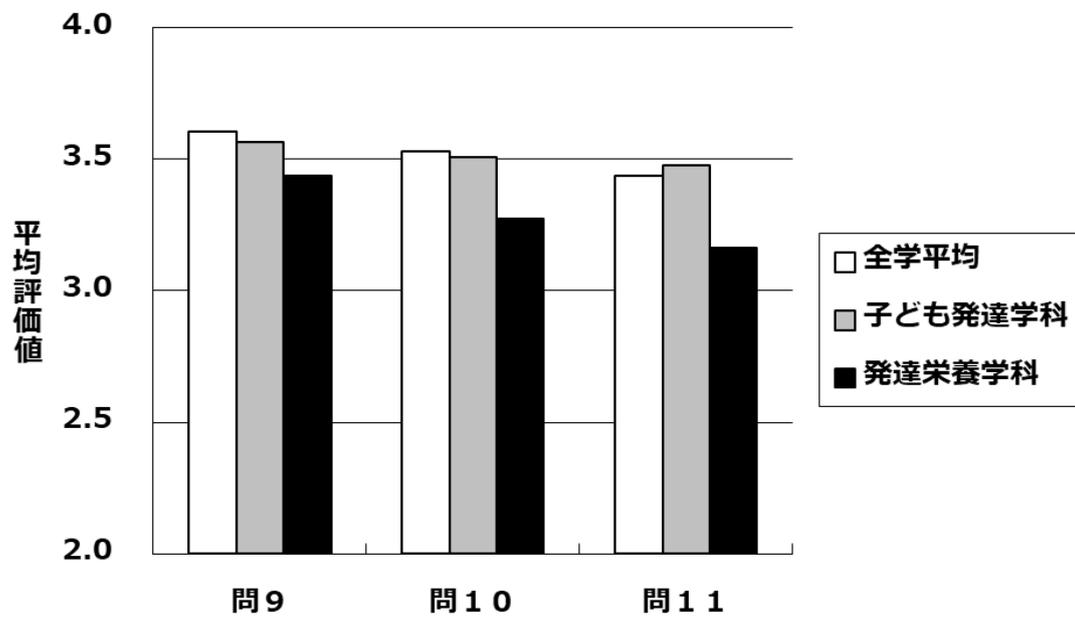


2018年度前期

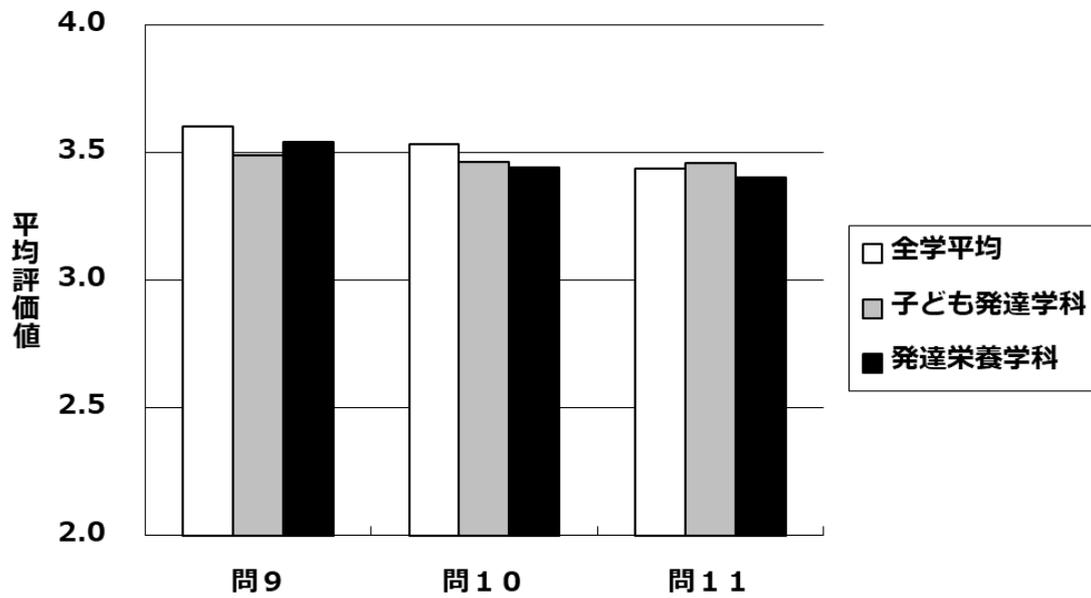


2018年度後期

図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評価値

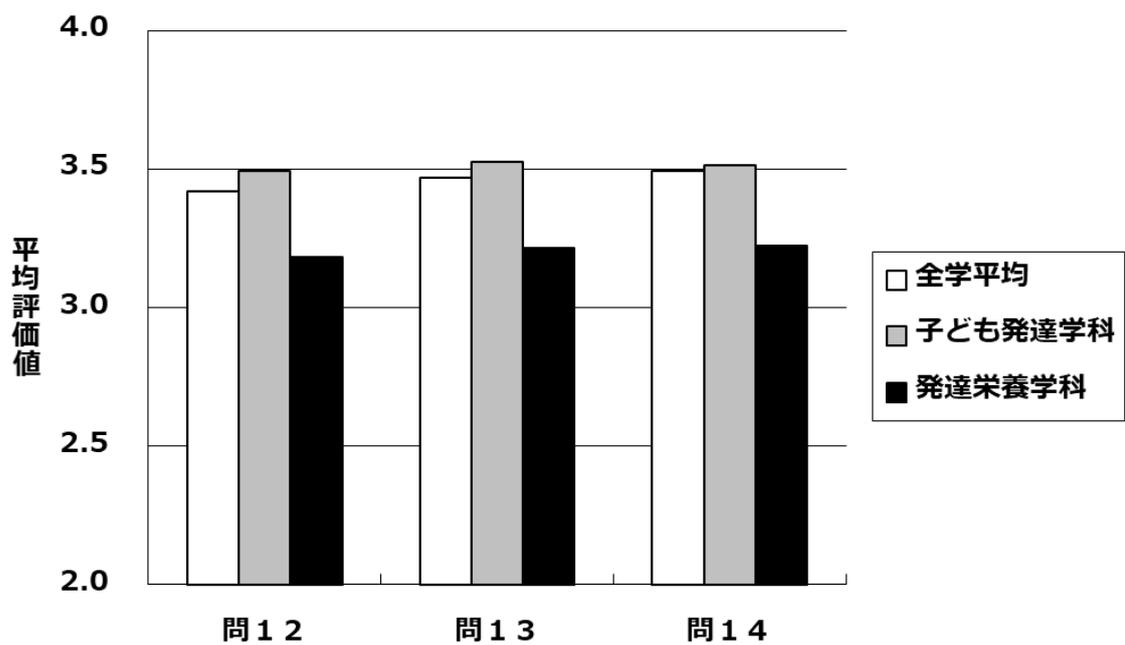


2018年度前期

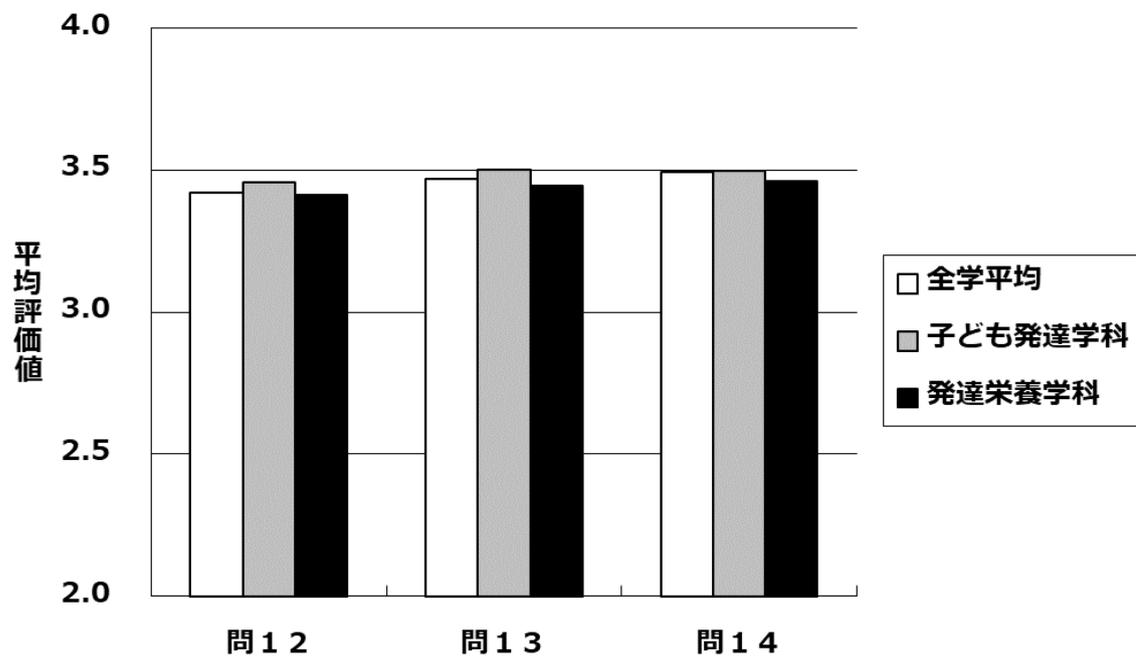


2018年度後期

図3 全学および人間発達学部の間9～11の平均評価値

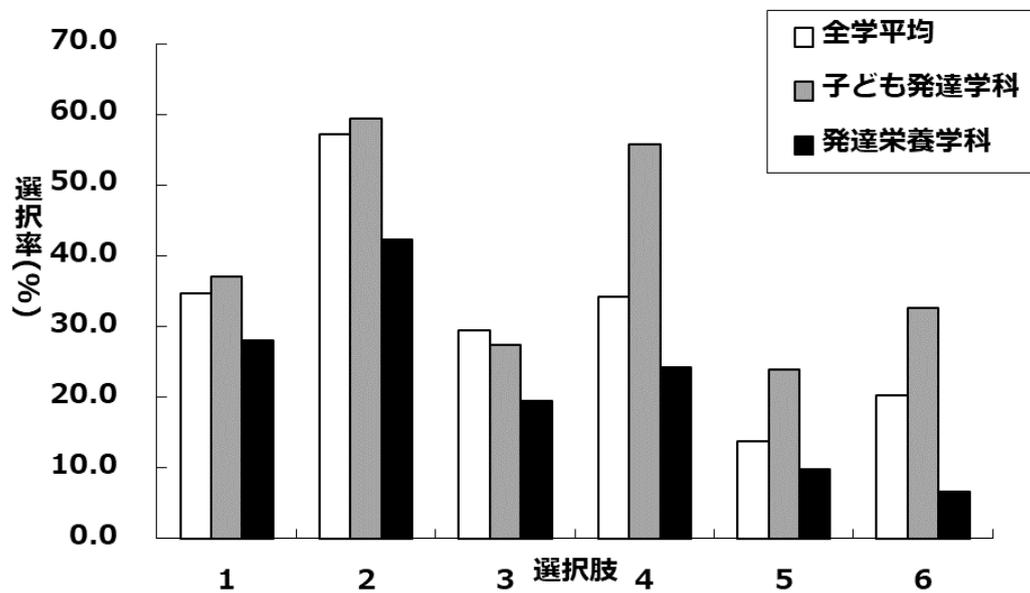


2018年度前期

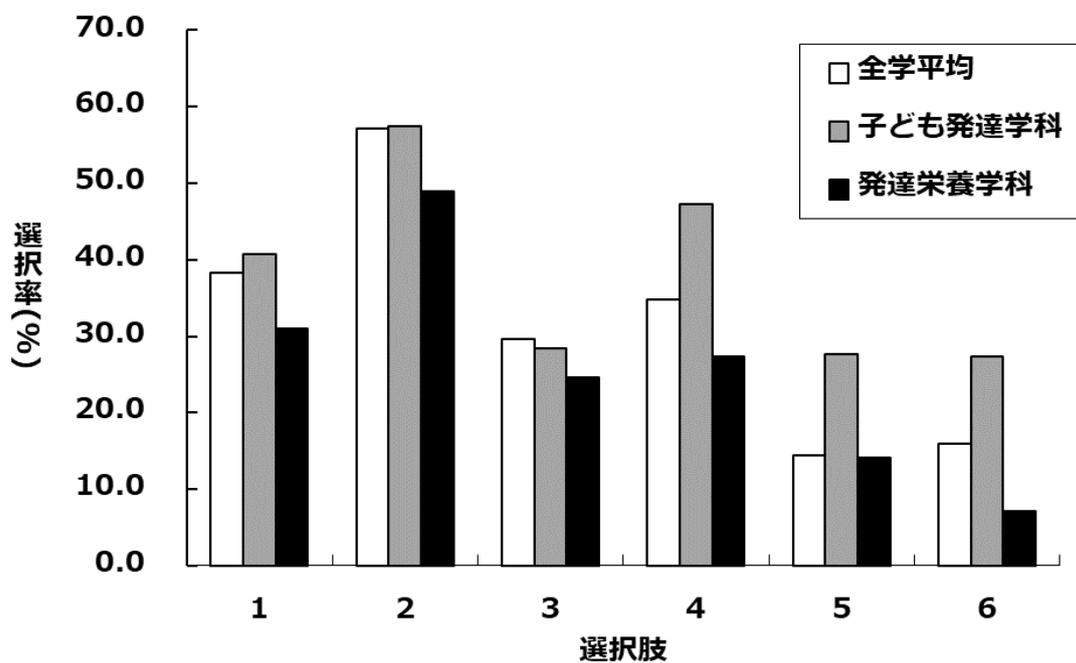


2018年度後期

図4 全学および人間発達学部の間12、13および14の平均評価値



2018年度前期



2018年度後期

図5 人間発達学部の間1-5の選択率

※選択肢1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力  
4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.31	3.19	3.33	3.58	3.40	3.41	3.31	3.28	3.33	3.24	3.43	3.41
問2	3.24	3.16	3.25	3.56	3.79	3.55	3.59	3.42	3.48	3.38	3.49	3.29
問3	2.68	2.77	2.66	3.10	3.50	2.90	3.00	2.99	3.12	2.89	3.10	2.88
問4	3.36	3.44	3.35	3.59	3.84	3.60	3.67	3.52	3.61	3.46	3.50	3.13
問5	3.68	3.77	3.67	3.73	3.91	3.72	3.83	3.67	3.71	3.65	3.66	3.52
問6	3.47	3.63	3.45	3.66	3.85	3.64	3.80	3.56	3.65	3.50	3.59	3.38
問7	3.52	3.59	3.50	3.70	3.89	3.61	3.83	3.60	3.63	3.58	3.59	3.37
問8	3.47	3.51	3.46	3.58	3.84	3.39	3.64	3.53	3.64	3.44	3.50	3.35
問9	3.44	3.56	3.42	3.61	3.83	3.80	3.79	3.61	3.63	3.59	3.56	3.44
問10	3.40	3.55	3.38	3.61	3.79	3.68	3.59	3.55	3.61	3.50	3.51	3.27
問11	3.24	3.28	3.23	3.52	3.77	3.59	3.61	3.49	3.52	3.47	3.48	3.17
問12	3.19	3.26	3.18	3.54	3.68	3.59	3.65	3.43	3.48	3.39	3.49	3.18
問13	3.27	3.33	3.26	3.59	3.75	3.57	3.69	3.45	3.51	3.41	3.53	3.22
問14	3.32	3.40	3.30	3.60	3.75	3.57	3.73	3.51	3.57	3.47	3.51	3.22
平均値	3.33	3.39	3.32	3.57	3.76	3.55	3.62	3.47	3.54	3.43	3.50	3.27

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問1	3.54	0.00
問2	3.24	0.00
問3	3.74	0.00
問4	3.63	0.00
問5	3.21	0.00
問6	3.57	0.00
問7	3.56	0.00
平均値	3.50	0.00



授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.32	3.51	3.28	3.53	3.44	3.31	3.27	3.28	3.39	3.15	3.38	3.31
問2	3.35	3.46	3.34	3.51	3.71	3.35	3.58	3.46	3.52	3.40	3.44	3.43
問3	2.72	2.78	2.71	2.88	3.33	2.84	2.88	2.96	3.09	2.80	3.05	3.01
問4	3.40	3.53	3.38	3.38	3.81	3.39	3.81	3.58	3.67	3.48	3.42	3.43
問5	3.65	3.74	3.64	3.77	3.80	3.68	3.88	3.74	3.80	3.67	3.64	3.61
問6	3.49	3.63	3.46	3.70	3.78	3.58	3.88	3.64	3.74	3.53	3.56	3.58
問7	3.50	3.60	3.49	3.57	3.74	3.57	3.92	3.64	3.69	3.58	3.57	3.56
問8	3.48	3.59	3.47	3.60	3.53	3.46	3.62	3.51	3.62	3.39	3.47	3.52
問9	3.48	3.71	3.44	3.64	3.74	3.58	3.92	3.69	3.70	3.68	3.49	3.54
問10	3.48	3.71	3.44	3.46	3.80	3.44	3.81	3.64	3.73	3.54	3.46	3.44
問11	3.39	3.59	3.35	3.33	3.73	3.29	3.65	3.49	3.57	3.40	3.46	3.41
問12	3.26	3.43	3.23	3.42	3.69	3.42	3.77	3.50	3.56	3.43	3.46	3.41
問13	3.33	3.48	3.31	3.44	3.63	3.45	3.77	3.52	3.54	3.48	3.50	3.44
問14	3.40	3.59	3.36	3.44	3.81	3.47	3.81	3.59	3.63	3.54	3.50	3.46
平均値	3.38	3.52	3.35	3.48	3.68	3.42	3.68	3.52	3.59	3.43	3.46	3.44

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問1	3.61	0.00
問2	3.36	0.00
問3	3.88	0.00
問4	3.93	0.00
問5	3.58	0.00
問6	3.86	0.00
問7	3.86	0.00
平均値	3.72	0.00

